

平成30年1月11日

報道機関各位

(特用林産物セミナー)

特用林産物の研究開発と地域の取組・課題 —有用樹木・きのこなどについて—

人々のニーズが多様化する中で、有用樹木やきのこ、山菜等の特用林産物がもつ様々な機能性に対する関心が高まっています。

そこで地域ニーズに対応した特用林産物に関する研究開発事例と事業化に向けた取り組みについて紹介するとともに、今後の研究の方向性について皆さんとともに考えるセミナーを開催します。

◎日 時 平成30年2月8日(木) 13:30~17:00

◎場 所 まなみーる(岩見沢文化センター)音楽室(2F)
(岩見沢市9条西4丁目1-1) (空知総合振興局向かい)

◎主 催 (地独)北海道立総合研究機構森林研究本部(林業試験場、林産試験場)

◎後 援 北海道

◎出席者

○ハスカップと歩んで半世紀 (株)ハスカップ 代表取締役 三ツ野由希子

○ハスカップの利用とイメージの変遷~勇払原野の事例~

(苫小牧市美術博物館(あみゆー)主任学芸員 小玉愛子)

○特用林産物におけるブランド品目づくりと生産者育種

(森林研究本部 企画調整部主査 錦織正智)

○しいたけ栽培で集落再生を!

(下川町特用林産物栽培研究所所長 平野優憲)

○地域ニーズに対応したきのこの研究開発と事業化に向けた取り組み

(林産試験場 利用部主査 宜寿次盛生)

◎申込方法

○チラシ裏面の申込用紙に必要事項を記入の上、Fax、メールなどでお申し込みください。

○申込締切 平成30年1月31日(水)(定員:100名)

◎報道(取材)に当たってのお願い

どなたでも自由に無料で参加できますので、開催について広く報道していただくようお願いいたします。

◎同時配付先

道政記者クラブ、林政記者クラブ、空知総合振興局記者クラブ

詳しくはこちらへお問い合わせください。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構(道総研)

森林研究本部 林業試験場 企画調整部 普及グループ(担当者:佐藤・渡邊)

電話 0126-63-4912 ※平日8:45~17:30 土・日・祝日はお休みです。

特用林産物の研究開発と 地域の取組・課題

— 有用樹木・きのこなどについて —



ナナカマド



しいたけ



ハスカップ



まつたけ

人々のニーズが多様化する中で、有用樹木やきのこ、山菜等の特用林産物のもつ様々な機能性に対する関心が高まっており、道内でもニーズに対応した樹木やきのこの利用技術が求められています。

地域ニーズに対応した特用林産物に関する研究開発事例と事業化に向けた取り組みについて紹介するとともに、今後の研究の方向性について皆さんとともに考えます。

参加
無料

日時

平成 **30** 年 **2** 月 **8** 日 (**木**) 受付 12:30~
13:30 ~ 17:00

場所

まなみーる (岩見沢文化センター) 音楽室
(岩見沢市9条西4丁目1-1)

主催

(地独) 北海道立総合研究機構 (道総研) 森林研究本部
(林業試験場、林産試験場)

後援

北海道

申込方法

- 裏面の申込用紙に必要事項を記入の上、郵便・FAX・メールでお申込みください。
- 申込締切日：平成**30**年**1**月**31**日 (**水**) ※定員(100名)になり次第、締め切らせていただきます。

(問い合わせ先) 079-0198 美幌市光珠内町東山
道総研森林研究本部 企画調整部 普及グループ (担当：佐藤・渡邊)
TEL: 0126-63-4164 FAX: 0126-63-4166
E-mail: forestry@hro.or.jp

特用林産物の研究開発と地域の取組・課題

－有用樹木・きのこなどについて－

特用林産物
セミナー

プログラム

<開 会 13:30 >

《 概要説明 》

◆ 北海道特用林産物振興方針の策定について（北海道水産林務部林務局林業木材課主査 中島清道）

《 発 表 》

◆ ハスカップと歩んで半世紀（(株)ハスカップ 代表取締役 ミツ野由希子）

酒税法の改正により家庭での果実酒作りが許可されたことに端を発して、木や草の実の自然酒の研究開発に取り組みをはじめたのは、昭和38年のことでした。その後、紆余曲折を経て、平成4年には新千歳空港の開港に伴い北海道の植物遺産ともいえるハスカップを日本はもとより世界に発信しようと考え、ハスカップの専門店を出店しました。ここでは、ハスカップとの出会いから専門店を作るまでを振り返り、お話しします。

◆ ハスカップの利用とイメージの変遷～勇払原野の事例～（苫小牧市美術博物館（あみゅー）主任学芸員 小玉愛子）

北海道の小果樹「ハスカップ」は、湿原周辺の泥炭地やハンノキ林などに生育し、かつて勇払原野にあった広大な自生地では夏に果実を採集する人々の姿が風物詩になっていました。製菓としての需要の拡大、自生地や農地の港・工場用地への転換、減反政策などを機に「栽培果樹」として歩み出し、苫小牧では「市の木の花」となっています。本報告では、主に勇払原野におけるハスカップの「位置付け」「イメージ」の変遷を辿ります。

◆ 特用林産物におけるブランド品目づくりと生産者育種（森林研究本部 企画調整部主査 錦織正智）

山野に自生する山菜などの特用林産物では、栽培化が目下の話題です。栽培化に欠かせない品種の開発は、本道では緒についたばかりです。特用林産物の品種開発は、自然の豊かさ（遺伝資源）を利用し、この過程で生産者自身が品種の開発に関わる「生産者育種」により生まれる品種は、地域の自然と生産者との間で生まれる地域を象徴するブランド品目と云えます。本報告では、林業試が取り組んだ「生産者育種」の事例を紹介しします。

◆ しいたけ栽培で集落再生を！（下川町特用林産物栽培研究所所長 平野優憲）

下川町一の橋集落は、地域の課題である人口減少、超高齢化、コミュニティの低下などの解決に、地域資源である木質バイオマスを中心とする熱エネルギーを活用して集落再生を目指しています。この熱エネルギーは、しいたけ栽培、苗木の育苗といった産業での活用のほか町営住宅、住民センターなど地域住民に欠かせない存在となっています。

◆ 地域ニーズに対応したきのこの研究開発と事業化に向けた取り組み（林産試験場 利用部主査 宜寿次盛生）

北海道各地でシイタケ菌床栽培が行われていますが、栽培に適した良質な広葉樹おが粉を安定的に入手することが難しくなっています。一方で、新たな広葉樹資源としてヤナギ類が注目され、地域資源としての活用が検討されています。本報告では、林産試と関係機関が共同で取り組んだ「ヤナギを活用した菌床シイタケの安定生産」について紹介しします。またトドマツ林等を整備し道産マツタケの林地栽培を目指した取り組みを紹介しします。

《 総合討論 》（座長：北海道大学農学研究院 准教授 玉井 裕）

<閉 会 17:00 >

<日時・会場・参加申込書>

開催日時：平成30年2月8日（木） 13:30～17:00

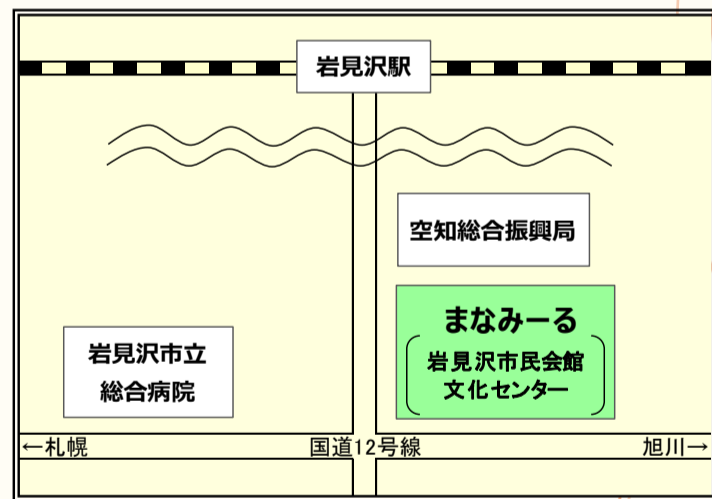
開催場所：まなみーる（岩見沢文化センター）音楽室（2F）

・JR利用 函館本線 岩見沢駅下車 徒歩 約10分

・バス利用 「市民会館前」下車 徒歩1分

申込締切：平成30年1月31日（水）（定員100名）

（会場の収容人数に限りがございますので、定員に達し次第、締め切らせていただきます。）



道総研 森林研究本部 【FAX番号 0126-63-4166】

申し込み 連絡先	所 属		担当者名	
	E-mail		TEL	

参加者	所 属（団体・企業等） 市町村名（一般の方）	役 職 等	ふりがな 氏 名

※ ご記入いただいた事項は、このセミナーに関する連絡などにのみ使用します。

（問い合わせ先）
道総研森林研究本部 企画調整部 普及グループ（担当：佐藤・渡邊）
TEL：0126-63-4164 E-mail：forestry@hro.or.jp